

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第1部門第2区分
【発行日】平成18年5月18日(2006.5.18)

【公開番号】特開2005-7137(P2005-7137A)
【公開日】平成17年1月13日(2005.1.13)
【年通号数】公開・登録公報2005-002
【出願番号】特願2003-329056(P2003-329056)
【国際特許分類】

A 4 7 F 5/00 (2006.01)

【F I】

A 4 7 F 5/00 D

【手続補正書】

【提出日】平成15年8月25日(2003.8.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項2

【補正方法】追加

【補正の内容】

【請求項2】

陳列用フックの上部に、等間隔に一定方向に段差をつけることにより、陳列物品を容易に整列させて陳列できる陳列用フック。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】陳列用フック

【技術分野】

【0001】

本発明は、フックの上部に、斜め方向に等間隔に段差をつけ、陳列物品を正面から見て斜め方向に整列させて掛けやすくした陳列用フックに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来の陳列用フックは、横断面が単純な丸い形の陳列用フックが多く使われてきた結果、陳列物品は正面に向けて陳列される事が多い。

【0003】

しかし、正面を向けて陳列すると幅の広い物品は陳列スペースを広く取ってしまうため多くの品目を陳列用フックに掛ける事ができないという欠点があった。

【0004】

陳列スペースの有効活用という点に関して、正面を向けて陳列用フックに物品を陳列することは大きな障害であった。

【0005】

この改善策として、陳列用フックの上部に、斜め方向に等間隔に段差をつける方法がある。

図1はこの方法による陳列用フックの説明図である。1はフックに物品が掛かる部分、2は段差の凸部分、3は段差の凹部分である。

【図2】

はこの方法による陳列用フックの縦断面図である。１～３は図１と同様である。

【図３】

はこの方法による陳列用フックの平面図である。１～３は図１と同様である。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

解決しようとする問題点は、物品を陳列用フックに陳列する際に、正面を向けて陳列すると、陳列スペースを広く取ってしまい、より多くの品目を陳列用フックに掛ける事ができない、という点である。

【０００７】

本発明は、陳列スペースを有効に活用するため、多くの手間を掛けずに陳列物品を斜めに整列させて掛けられるようにしたことを最も主要な特徴とする。

【発明の効果】

【０００８】

本発明の陳列用フックは、陳列物品を上部から見て斜めに整列しやすく掛けられるようにしたので、正面に向けて陳列した場合と比べてより多くの品目を陳列でき、陳列スペースをより有効に活用できるという利点がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【０００９】

陳列スペースの有効活用という目的を、陳列用フックの外寸を変えずに、陳列用フックの上部に、斜め方向に等間隔に段差をつけることによって実現した。

【実施例１】

【００１０】

図１は、本発明の１実施例の説明図である。

【産業上の利用可能性】

【００１１】

陳列用フックの上部に、斜め方向に等間隔に段差をつけることによって、陳列物品を手間をかけずに斜めに整列させて掛けられるので、より多くの品目を陳列用フックに掛ける事ができ、陳列スペースの有効に活用できる。

【手続補正３】

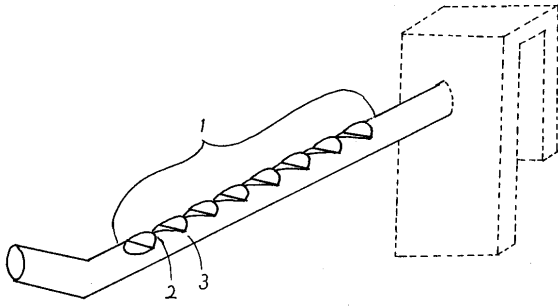
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

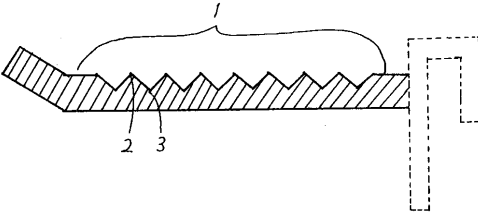
【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】

